

「ダム防災操作訓練シミュレータ」を活用した 研修を実施します

独立行政法人^{みずしげんきこう}水資源機構では、独自に開発した『ダム防災操作訓練シミュレータ』※を活用し、近年頻発する大型台風や線状降水帯などに対しても的確なダム防災操作を実施できるよう、職員を対象とした研修や訓練を実施しています。

このたび、この訓練シミュレータを用いて、ダム防災操作に従事する全国の都道府県等の職員の皆様を対象とした『ダム防災操作研修』を行うことにしましたのでお知らせします。

この研修では、ダム操作の経験豊富な水資源機構の職員が講師となり、受講される皆様とインターネットで接続した訓練シミュレータを使用しながら、実践型の防災操作の指導を行います。

※ 『ダム防災操作訓練シミュレータ』は、水資源機構が管理しているダムの疑似操作ができるように独自に開発した訓練システムです。

このシミュレータでは、平成30年西日本豪雨や令和元年台風19号などによる洪水を再現でき、降雨予測及び下流河川水位等に留意しながら、ゲート放流等のダム防災操作を疑似体験することができます。



令和3年6月24日
独立行政法人 水資源機構

発表記者クラブ

国土交通記者会、農政クラブ、農林記者会
水資源記者クラブ、竹芝記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 総合技術センター
マネージメントグループ長 宮前

住所：〒338-0812 埼玉県さいたま市桜区大字神田 936 番地

電話：048-853-1785（代表）

ホームページ：<https://www.water.go.jp>

公式ツイッター：https://twitter.com/jwa_pr



令和3年度ダム防災操作研修（外部機関向け）

【基礎コース】 実施時期：令和3年8月5日（木）～6日（金）（2日間）

ダム防災操作に従事する者のうち、初心者や経験の浅い者を対象とした基礎的研修です。

ダム管理の基礎知識の講義及び「ダム防災操作訓練シミュレータ」を用いた放流操作、通知等の基本的防災操作の演習を行います。

【応用コース】 実施時期：令和3年10月21日（木）～22日（金）（2日間）

ダム防災操作に従事する者のうち、特にダム操作の指揮を執る立場にある者を対象とした研修です。

通常のダム防災操作に加え、昨今ニーズの高まっている「異常洪水時防災操作」や「事前放流実施判断」などの高度な防災操作についての講義及び「ダム防災操作シミュレータ」等を用いた演習を行います。

実施方式：webによる講義・演習

募集人数：各コース8名

受講料：1名につき80,000円（消費税込み）

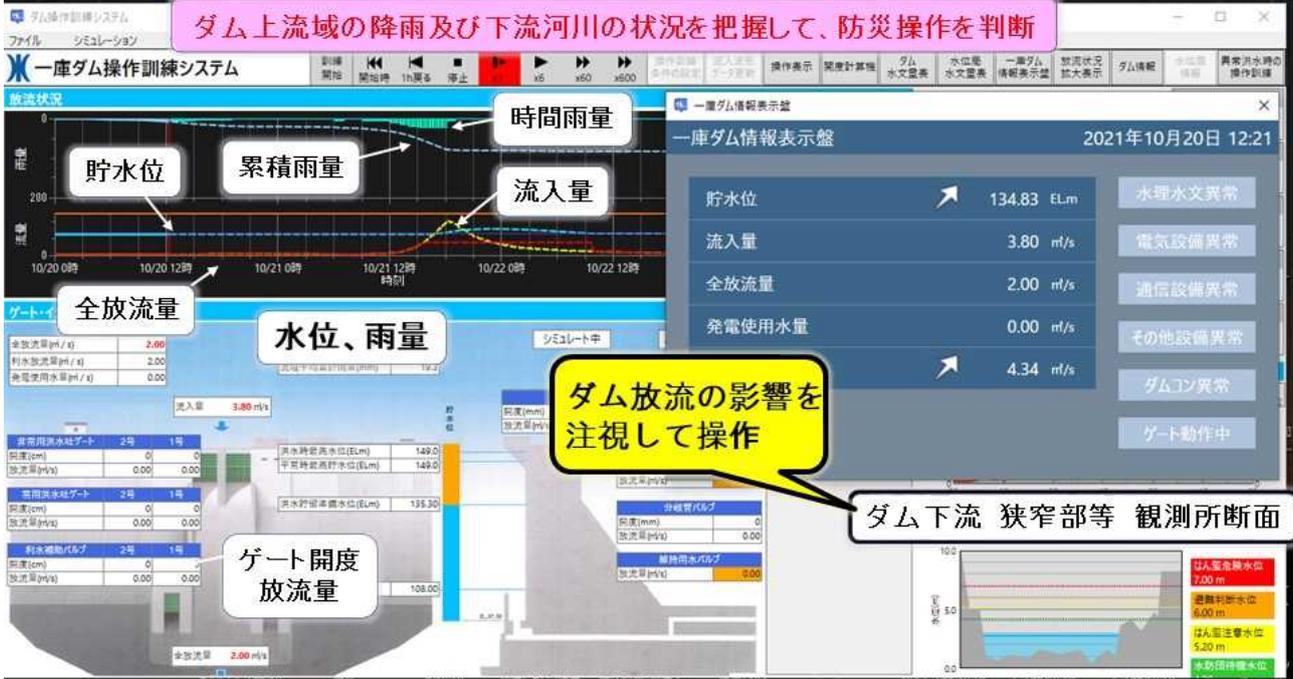
その他：①インターネット接続（zoomを使用）による遠隔操作でシミュレータを操作していただきますので、研修用として各自パソコンが2台必要となります。
②パソコンの準備が難しい場合は、有料（10,000円／台（消費税、往復送料込み））の貸し出しも行いますので、ご相談ください。
③受講料には研修教材費を含みます。（教材は事前に送付します。）
④「ダム防災操作に従事する者」とは、ダム管理を担う組織に所属して、ダムの操作に従事する者（又は従事する予定のある者）のことをいいます。

※受講者の募集に関しては、6月末頃、水資源機構ホームページ <https://www.water.go.jp> に掲載いたします。

■ ■ ダム防災操作訓練シミュレータの概要 ■ ■

水資源機構が活用しているダム防災操作訓練シミュレータ

過去の洪水を再現し、流入量の変化に対応した防災操作や異常洪水時防災操作、特別防災操作等、高度な判断が求められる訓練が可能



水資源機構が開発した「ダム操作訓練シミュレーター」は、基本操作に留まらず、様々な降雨状況、洪水に対して下流水位を把握しながら行う、応用的な操作を、実践しながらに訓練できる、**ダム技術者のあらゆるニーズに応えた訓練ツール**

ダム防災操作シミュレータに実装している機能

- 1 ダム管理用制御処理設備の再現
- 2 過去の洪水を再現(新たな洪水も追加可能)
- 3 チーム訓練機能(複数画面表示)
- 4 タイムライン機能
- 5 放流操作方法のガイド機能
- 6 放流に伴う貯水位変動と下流河川への影響を反映
- 7 アシスト機能(水位・操作規則違反お知らせ)
- 8 データ出力機能(操作訓練記録レジュメ)
- 9 リアルな出水対応の再現(予測雨量の変化)
- 10 水機構分布型流出予測システムとの連携(事前訓練)
- 11 ダム防災操作支援システム(水機構別途開発)と連携

研修で用いる機能



事前放流、特別防災操作、異常洪水時防災操作等の訓練が可能

